

会 議 録

会 議 名	令和元年度第1回小金井市史編さん委員会		
事 務 局	生涯学習課 文化財係		
開 催 日 時	令和元年5月13日(月)午後2時から3時		
開 催 場 所	小金井市役所第二庁舎801会議室		
出 席 委 員	根岸委員長 牛米委員 大熊委員 中嶋委員 日高委員 井上委員 林委員		
欠 席 委 員			
事 務 局 員	関生涯学習課長 山崎文化財係長 高木主事(学芸員)		
傍 聴 の 可 否	可	傍 聴 者 数	1名
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 平成30年度市史編さん事業について</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 市史編さん委員会、編集委員会議</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 資料編と通史編の刊行</p> <p>(2) その他の事業について</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 市民協力員の活動</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 古文書講座</p> <p style="padding-left: 20px;">ウ 古文書調査委託</p> <p style="padding-left: 20px;">エ 市史編さん資料の刊行</p> <p style="padding-left: 20px;">オ 多摩郷土誌フェア</p> <p>2 議 題</p> <p>(1) 令和元年度の事業計画について</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 市史編さん委員会</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 市史刊行記念講演会</p> <p style="padding-left: 20px;">ウ その他事業</p> <p>(2) 市史編さん事業の総括に向けて</p> <p>(3) その他</p> <p>3 次回の会議日程</p> <p style="padding-left: 40px;">令和元年10月21日(月)午後2時～</p> <p style="padding-left: 40px;">於：市役所第二庁舎8階801会議室</p> <p>4 配付資料</p> <p>(1) 小金井市史通史編・資料編チラシ</p> <p>(2) 季節展「名勝小金井桜」チラシ</p>		

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">(3) 東京の文化財第 126 号(4) 令和元年度市史編さん委員会開催日程(5) 月刊こうみんかん 3, 4, 5 月号 |
|--|---|

会 議 結 果

関生涯学習課長 お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。令和元年度第1回市史編さん委員会を開催いたします。新年度の市史編さん事務局の職員体制に変更はございません。本年度もどうぞよろしくお願いたします。

それでは、この後の委員会の議事進行を根岸委員長にお願いいたします。

根岸委員長 それでは、早速本日の委員会を始めたいと思います。小金井市史の資料編、通史編が無事刊行できました。本当に多くの方達にご苦勞をおかけいたしました。委員の方達、執筆者の方達、文化財センターの方達、事務局の方達、様々な方達のご努力のおかげで刊行できたと思っております。小金井市の市史編さんというのは、今後も継続しながら、小金井市の歴史、文化を確認し、次の市史編さんにも繋げて行くということが決まっております、そういう中で、今後どうしていくかということを考えるのが第一回の編さん委員会だと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いたします。

それでは、議事に入りたいと思います。まず、報告事項について、事務局からお願いいたします。

1 報告事項

(1) 平成30年度の市史編さん事業について

ア 平成30年度市史編さん委員会

イ 資料編と通史編の刊行

高木主事(学芸員) ア 平成30年度市史編さん委員会について、報告いたします。

平成30年度につきましては、5月14日、10月29日、2月4日の計3回の編さん委員会を開催いたしました。委員会の中では、まず考古部会における資料編の編さん、又、もう一つの通史編の編さんに関わることをご審議をいただきました。また、委員の皆様には、通史編の原稿の確認をしていただきまして、ご意見を頂戴いたしました。まずこれがアでございます。

続けて、イの件もご報告いたします。平成30年度は、市史編さん、続いて集大成である通史編のご報告です。サイズはA5版、820頁構成でございます、更に古地図、小金井村1枚、貫井地域が2枚の絵図ですね、付録として合計3枚お付けしております。こちらを2,000部印刷いたしまして、頒布価格は1,600円でございます。これに関連いたしまして、今後刊行物のPRとして、現在市報、ホームページを使用して、周知を図っております。

またこれらに加えてPR用のポスターとチラシ。青い冊子がチラシでございます。PR用に作成いたしました。このほかでは、早速なのですが、市民の方からは、通史編等の刊行物に対して反応がございましたので、簡単にご報告させていただきます。市民団体が主催されました講演会で「通史編を読む」の題目にて、説明させていただきました。

私は執筆者ではないので、通史編ができるまでの事業の経過や方針を

事務局としての立場でお伝えしました。新たな市史編さんに向けた興味が高まっていることを肌で感じました。以上となります。

根岸委員長 ありがとうございます。報告について、何かご質問ございますか。無ければその他の事業についてお願いします。

(2) その他の事業について

- ア 市民協力員の活動
- イ 古文書講座
- ウ 古文書調査委託
- エ 市史編さん資料の刊行
- オ 多摩郷土誌フェア

高木主事(学芸員) アからオまでをまとめて報告いたします。

アの市民協力員の活動ですが、小金井市史の編さんのために、資料の収集や調査をお願いしております。現在、二人おりまして、畑野さん、閑野さんにご協力いただいております。主に資料の調査や収集をお願いしております。

続いて、イの古文書講座について、3月2日(土)、10日(日)の2回の連続講座を実施しました。合計57人が受講されております。また、講座の講師として市史編さん近世部会調査員でもあり、国文学研究所教授である岩橋さんをお願いいたしました。「村の中の修験」と題しまして、小金井地域における市内の修験関係を題材として、近世の古文書の基礎知識や時代背景を併せてご解説いただきました。

続いてウの古文書調査委託は、根岸先生に古文書調査、主に翻刻作業をお願いしております。ここ数年来継続しております梶野家文書の一部分を調査していただきました。

エ市史編さん資料の刊行、こちらは、これまでの古文書調査委託において既に翻刻されている古文書の中から活字化する事業となります。昨年度の市史編さん資料は、第58編「梶野新田梶野家文書Ⅲ」を発行いたしました。

最後にオ毎年恒例となっております「多摩郷土誌フェア」は1月19日、20日に実施いたしました。以上となります。

根岸委員長 以上の報告につきまして、何かご意見ございますか。よろしいでしょうか。それでは、2議題(1)令和元年度の事業計画について、お願いします。今年度の事業を紹介していただき、議論していただければと思います。

2 議題

(1) 令和元年度の事業計画について

- ア 市史編さん委員会
- イ 市史刊行記念講演会
- ウ その他事業

高木主事(学芸員) ア市史編さん委員会についてでございます。

今年度は本日を含めて合計3回の開催を予定しております。本年8月19日にて第4期の任期が満了となります。翌日8月20日から新たな第5期の任期が始まります。

次にイ小金井市史刊行記念講演会についてです。既にご報告したように、通史編及び資料編考古・中世の刊行をもって市史編さん計画上の全ての刊行物が完成したことになります。刊行物を多くの方に読んでいただきたいと思っております。小金井市の歴史や文化を発信していくことを目的に、この記念講演会を開催するものです。

日程は、11月2日(土)午前中、会場は小金井宮地楽器ホール、小ホールです。150人規模の施設です。また講演者には、各部会長であった日高委員、牛米委員、根岸委員、中嶋委員にお願いしております。

根岸委員長 イの市史刊行記念講演会についてですが、4人の先生方には日程についてのお話をさせていただきただけですので、今後何らか4人で打ち合わせのため何らか話し合う必要があると思えます。

とりあえず、日程と開催をするということについて、いかがでしょうか。どんなふうになればいいかということについてご意見があればお願いします。これから検討するということよろしいですか。

大熊教育長 市史を読ませていただいて、強く感じたのですが、市史は昔のことが書いてあると思いがちですが、読み進め、学んでいくことによって、こういう歴史があったことを踏まえてこれからどう進んでいったらいいのかということを示唆してくれるものです。市史は小金井の未来の羅針盤になるのだということをごどこかで伝えていただきたい。そのような思いで発言させていただきました。以上です。

根岸委員長 「未来の羅針盤」というキャッチコピーになりそうなお話をいただいて、ありがたいと思えます。

他にいかがでしょうか。では今後詰めていくということをお願いできればと思えます。

高木主事(学芸員) では、ウのその他の事業について、1の報告のアイウエを踏襲する形となっています。

このたびの通史編の刊行をもちまして、一つの事業の区切りとなります。4つの専門部会、考古部会、近世部会、近代部会、現代部会は既に解散をしております。そのため、今年度は調査員による調査、研究は行いません。ただし、市民協力員には、引続き継続をお願いしております。これは今後、地域に精通した市民協力員と連携して、市内の歴史資料の収集や調査を進めることが非常に重要であるためです。

このほか、古文書講座、古文書梶野家文書の調査委託、更には市史編さん資料集の継続刊行を行ってまいります。また、例年1月に行う多摩郷土誌フェアにも引続き参加いたします。ここで刊行いたしました、通史編、資料編のPRも行う予定です。今年度のその他事業については、以上です。

山崎文化財係長 補足します。郷土誌フェアの日程は1月18日、19日の土日に例年どおり立川女性センターにて開催することが決まっております。

根岸委員長 1月18日、19日ですね。ありがとうございます。
この件についてですが、報告の(2)市史編さん事業の総括に向けてというのが今回の大きな議題だと思っていますので、それを併せた上で改めて承認を得ると言う形にしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

委員 (承認)

根岸委員長 それでは、(2)市史編さん事業の総括に向けて、各部会や執筆者に聞き取りをして、2月、3月に部会を開催し、それぞれの部会の総括をまとめていただいたかと思いますが、ご提出いただきましたのは、あくまでメモですので、今回それをお話いただくような形で、考古、近世、近代、現代の順番でお願いしたいと思います。日高委員、お願いします。

ア 考古部会

日高委員 資料に配られていないので、分かりにくいかと思いますが、考古部会といたしましては、小金井市史で通史編、資料編〈考古・中止〉を刊行いたしました。それぞれの時代において、今までの小金井市域の調査の成果をまとめることができました。前回の小金井市史からかなり年月が経って、新しい成果や、その当時には扱えなかったものについて、まとめて調査することができたことは、新しい成果ということが言えるかと思えます。

新たな試みとして、3D画像による写真あるいは図面の提示を今回は行いました。3D画像の調査は、日進月歩で、かなり新しい成果として出すことが出来たかと思えます。他の地域の市史と比較しても、近年まだまだありませんので、新しい方法として提示することが出来たと思えます。

一方、できなかったこと、時間の制約がかなり大きかったものですから、考古部会としては、小金井市で出土したものなのだが、小金井市で持っていない資料がかなり多く存在していて、そういうところでの悉皆調査は、時間的制約があって出来なかったと。

ここらへんは今後の課題として、やはりかつての資料をどのようにして小金井市としても活かしていくかということを考えるべきだと思えます。

市史編さん体制ということでは、今後のことにも関わりますが、今回調査をして、図面にしたものですとか、あるいは写真等々の情報を今後どのように活かしていくかということを事務局としても考えていただきたいと思えます。今回ある程度形にしたもの、集めたものを分散してしまう、あるいは散逸してしまわないように、どのような体制で行っていくかを含めて検討していただきたいと思えます。

また、市史編さんということでは、市史編さんに関わる専属の職員が必要だったと思えます。そこらへんでなかなか困難なところが多々あったと思えます。

先ほどの3D写真データはかなり重たい情報を持ったデータになるので、例えば市のホームページに掲載するのは難しいです。ですので、今

後はどういう形で活用していくかを検討していただく必要があります。

今回は写真もかなり撮影いたしました。それはDVDの資料としても掲載しているのですが、そういったデータなどの資料もですね、たぶん何もしないと散逸してしまいますので、どういう形で示していくかを考えていただきたいと思います。

最後に、今後の課題として考えられますのが、市史編さん事業に関わって、例えば市史研究とか紀要というものがこの事業ではなかったということがあります。市史編さん資料という、毎年作成しているものはあるようですが、それとは別に、市史が出た後、できなかったことを何かやはり形にしていきながら、次の編さん事業につなげていっていただくという意味で、紀要というものを考えていただきたいと思います。ざっとですが、考古部会での課題として意見があがったものです。以上です。

根岸委員長

全体として、後ほど議論していきますが、個別の問題で、何かご意見がございますか。よろしいでしょうか。

それでは、近世についてです。

近世は、3月30日に最後の近世部会を開きまして、総括をし、解散いたしました。

まず、編さんについてですが、一つは、今までの市史とどう違うかですが、前の市史が作成された時代である、40年前の時代の研究動向や関心と現在のものとは随分変わってきています。かつて近世は「権力の非常に強い時代で、百姓は虐げられていた。」というものでした。それが、「もっと地域の間人が主体的に活躍していた」と考えるようになったのが現在で、私達はそういう書き方をしたわけです。

前の市史があったからこそ基礎的なデータがあって、それが積み上げられたということは大きいと思います。

やはり何十年かごとにその時代その時代の研究を反映した市史があるということは必要だと感じました。

近世の場合は、市史編さん資料集が毎年刊行されていたということが非常に大きな役割を果たしました。

文化財センターには、現物の資料が集められており、それしか見られなかったというのは問題でもあるのですが、それを見ながら執筆ができたのは大きな利点でした。

以下、総括の際に意見として出されたものを読み上げます。

・職員の方がおられたおかげで、市史の執筆がだいぶ進み、職員の協力は非常に大きかった。

・執筆者の中には、村絵図をトレースできて、今後市民にとって大変利用価値の高いものであると事務局の尽力に感謝している。

・民俗調査をすべきであった。市内で古文書を持っている方は少なく、地主か村役人しかいないが、そういう立場でない、昔ながらの家でどんなものがあるかをきちんと調べる必要があったのではないか。

・通史として書いていったために、例えば幕末と明治はつながっているのだが、近世と近代で切れてしまった。幕末と明治を比較できるような

視点で何かできなかつただろうか。

- ・資料編、通史編と続けて作ったわけですが、資料編を作るだけではなく、もう少しきちんと全体の資料も調べたかった、もう少し時間が欲しかった。
- ・残した問題で、スペースの関係で書ききれなかった問題もたくさんあった。
- ・かつては、村については、年貢や検地ですとか領主がいかに支配していたか、あるいは鷹場の問題もあったのですが、その件が落ちてしまった。
- ・貫井村については、地図を付録にはつけられたが、小金井村ほど分析をする時間も無かった。
- ・市外の調査をもっときちんとすべきだった。
- ・今後についてだが、資料の保存、保管をきちんとしていく、そして、公開していく、そういうことを今後考えていかなければならない。それは例えば刊行物や様々なデータ等を出来る限りネットで公開するようなこともできるのではないか。あるいは、現物の文書が公開できたり、すぐに見られるように写真帳を作っておくようなことをやっておく必要があるのでは。
- ・市史編さん資料集は今後も続けて欲しい、
- ・通史の普及版、ダイジェスト版、あるいは子ども対象のものを考えていく必要がある。
- ・論文や小金井市史研究や紀要というようなものを今後刊行してほしい
- ・できなかつた問題について、市民向けにワンテーマブックを作ってはどうか。通史を超えたものを作れるのではないか。
- ・資料の読み方、難しいので、資料の解説本もできるのでは。
- ・今後の体制、市民協力員や文化財センターの嘱託職員の業務の継続を。このような意見がありました。日高先生と重複するところもありますが、これについていかがでしょうか。

それでは、近代部会について、お願いします。

牛 米 委 員

近代部会の総括、会議の中身についてお話ししたいと思います。

まず、近代部会は、部会調査員全員から聞き取りをしまして、私の方でまとめております。

近代部会の基本方針は、明治維新から昭和12年の町制施行までを担当しております。特に今回は、近現代ということで、前回の市史との大きな違いは、近現代を歴史的に考察していくということが大きな課題としてあったかと思えます。近代を歴史的な分析方法で考察を行うための資料は、基本的には、新たな資料調査をしないで、これまで収集してきた地域の資料ないしは東京都公文書館の資料を利用するというところでスタートしております。

近代においては、新たな形で全国統一の地方制度、学校教育の制度が作られてくるわけですが、そういった地方制度、教育制度、信用組合など、小金井において重要と思われる事項の制度的な沿革をそれなりに明

らかにできたのではないかと考えています。

また、近代部会と直接関係しなかったのですが、小金井桜については、資料編小金井桜というものが刊行されておりますので、小金井桜については、近代の通史編において叙述する形になりました。その中で、小金井桜の保存そのものが、現在の文化財保護法成立の中心的な素材となったという位置付けを示すことができたと考えております。

近代編の編さん、叙述の中心は、議会の議事録や行政文書、市内の旧家の古文書を中心に作っております。昭和12年以前の市の公文書は、必ずしも多くはありませんが、それでも、東京都公文書館所蔵のものとおあわせるとかなり有効に利用することができたというふうに考えております。

近現代部会の大きなテーマ、基調として考えたのは、やはり大東京の郊外に位置する小金井という地域が東京の発展、拡大に応じながら、徐々に発展していく過程です。

ただし、明治22年の町村制施行、新しい小金井村が成立したあと、日清・日露戦争期、村の運営の安定化に向けて様々な努力がなされてきました。村当局と議会、村民たちの村の発展への努力があったことを明らかにできたと思っております。

また昭和期においては、それまでの地域住民と新たに地域以外、東京から移住してくる新住民による親睦団体も作られています。後にそれがきっかけとなって、例えば小金井市域でスイカの新種が開発されています。小金井の在り方が変化していく中で、もともとの住民と、新たに小金井の住民となった人達との協力で、新たなものが誕生していったことを明らかに出来たかと考えております。

反省点としては、初めてということもありまして、個別の事実や制度的な部分は、それなりに明らかに出来たのですが、もう少しつつこんで、そこに出てくる人達のキャラクターなどの深みにまでは、なかなか到達していないなど部会の執筆者で話をしておりました。

こうしたことは、近代になって、村長や議員、消防団など、そこに名前が初めて出てくる人達の資料が必要になります。これまでは、名主さんのお宅の資料などを中心に資料調査がなされてきましたが、今後は、村長や議員などのお宅の資料調査が必要になります。今後、新たに資料調査をする際には、近代編に出てくるお宅に資料があるかないかを、確認していけば良いと思います。そうした材料は、たくさんあげることができたのかなと思っております。

近現代になると、今に近い時代だけに、プライバシーの問題もあって、資料調査は難しいかもしれないのですが、日頃から足を運んで、資料の大切さをご説明すれば、大事な資料を提供していただけるようになると思います。日頃からのお付き合いが必要かと考えています。

今回は、現在の郷土資料館である浴恩館建設の経緯がわかる、御大札に関係する資料や、札幌に所蔵されていた小金井学園関係資料など、市域外の資料をコピーで収集して、利用できる形にできました。

こういう資料も含めて、市史編さんに使用した資料は、これから整理して、やはり市民の方に公開して、活かしていただける活動を是非お願いしたいと考えています。

市民協力員の方の活動、文化財センターの嘱託の人達の業務は今後も大事になっていくだろうと考えております。

以上でございます。

根岸委員長 ありがとうございます。この件について、個別的に何かありますか。特になければ、現代部会、お願いします。

中嶋委員 現代部会では、2月24日に会議をし、原案を出した後に、みなさんからご意見を文書でいただいて、まとめました。それを全部発表することはできないですが、出た意見の概略を説明したいと思います。

まず、成果として、資料編については、1930年代から1990年代の小金井市の歴史を象徴する基本的な史料を提示したことになると思います。

通史編においては、資料編に集録できなかった資料文献がありながらも、それまでなかった実証的歴史を初めて明らかにしました。

日本史研究全体においても、都市化の影響を受けた1930年から1990年代に日本社会が高度経済成長を経てどのように展開したかということの考察にはなったかと思えます。1970年代から以前は結構あるのですが、1970年代から90年代までの殆ど研究が無いところについて、今回初めて取り上げたものとなったかと思えます。内容については、この期間における地方自治、環境保護、社会福祉、生涯学習、男女同権などの社会的課題について取り上げました。

課題としては、事務局体制について「通常業務と並行して市史編さん業務を行う体制で、職員の増員がされていないためか、人手不足を感じた。このような体制で行うのであれば、非常勤にそれなりの見識のある人材を配置して権限を与えるか、完成までの期限をゆるめる必要があったのでは」という意見がありました。

また、市の中での市史編さん担当部署の役割についてですが、他の部署で作成している副読本「わたしたちの小金井」の教師用副読本を資料調査の際に読む機会があったのですが、その編集については、市史編さん担当部署である生涯学習課が関わっていないようですが、市として刊行するものでしたら、一般的には協力して作成しているものだと思います。

また、市史の公文書についてですが、資料収集の際に確認したのですが、現代的な資料は、年限に従って廃棄されてしまっていますので、私達が歴史的に重要なものと思われるものが、廃棄されていることがあります。これについては、廃棄前に歴史的に重要か否かの観点から保存するかどうか確認をするシステムを今後作られた方がいいかと思えます。写真で残す等様々な保管方法を想定して検討していただければ実現できるのではないかと思います。情報公開コーナーや図書館にも、ここにしかない文書がありますので、それについても同様な観点による確認後

に保管を決定するようにお願いしたいと思います。

聞き取りも行ったのですが、時間の限られた中で十分には行えませんでした。もう少し組織的に行えばよかったというのが反省です。

市史の関係で私的にまとめていた資料も多く収集したのですが、刊行されていれば参考資料として使用できたと思います。かなり心残りがあります。そのような資料については、今後、刊行するなり、整理して次回に活用できるようにすることが必要だと思います。

以上です。

根岸委員長

それぞれの成果、各部会でできなかったもの、今後それをどのようにしていくのか、この総括をどう今後の市史編さんにつなげていくのかが重要な問題になるかと思います。今お聞きしたところ、資料の保存、公開、特に公文書の保存、今後廃棄される書類の保存について考えていかなければならないだろうということが一つ。

二つ目は、書ききれなかった部分、今までになんらかの形でまとめているのに刊行されていないものや覚書をまとめて、今後の市史研究や紀要にしていくことも考えていく必要があるのではないかと。これについては、今回の総括以外に、今回作成できなかった年表編や子どもを対象にした内容のもの、もう少し読みやすいビジュアルな通史を考えていく必要があるという意見もあったかと思います。

三つ目は、職員の体制。先ほど議題の1ウで言われた市民協力員の業務や古文書の調査業務、従来からある市史編さん資料の刊行のみならず、並行して、今ここで出された問題を解決するためにも、職員、事務局の現行の体制を今後も継続していく必要があるのではという意見。

大きく三つの問題がだされたのではと考えられます。これについて、ご意見やご質問をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

大熊教育長

この後、会合がある関係で失礼するものですから、今までのところについて、思うところを発言させていただきます。

一つは資料の保存についてですが、市の問題として考えておくべきことと考えています。また、今後皆さんにご意見を伺いながら適切に対処していかなければと考えています。

市史の公開については、新庁舎に市の歴史年表を掲示するスペースを確保してほしいという要望事項を出させていただきました。これはただ単に年表を掲げるだけでなく、その下に文化財の展示もできるスペースも確保し、定期的に展示品を変えることもできることを想定しています。小金井の歴史について、市民の誰もが身近に親しめる環境を市庁舎の中に提供するものです。現時点では要望の段階です。それがかなえていただけることになりましたら、皆さんのお力をお借りすることになるかもしれません。

また、中学校の子ども達が近代史を学ぶときに、ありきたりの近代史でなくて、小金井市史の厚い冊子では抵抗がありますので、PDF化したものをパソコンからいつでも見られるようにしていくことは、やはり必要だと思っていますので、実現するように考えていきます。今回PD

F化すると、今年度から毎年各中学校に42台づつ5年間にわたってコンピュータが入る計画になっています。社会科の授業のときに、コンピュータを持ってきて、メインサーバーにつなげば、いつでも市史が見られる形に努力したいと思っています。よろしく願いいたします。

もう一つは、社会科の副読本「わたくしたちの小金井」の編集が今年から始まりました。小金井の現代史を読んでもみると、市民のたえまぬ努力のおかげで今の小金井がある。小金井の良さをPRする記述が少ないのですね。僕らの住んでいる小金井はすごいところなのだと思う箇所を1ページでも割けたらと思っています。私達が作った案をみなさんに見ていただくといいかもしれません。

実際に小金井の教育に役立つようにしていきたいと思います。どうかよろしく願いいたします。すみませんが、ここで次の会合のため中座させていただきます。

根岸委員長
中嶋委員

今、大熊教育長からご意見いただきました。他にご意見ございますか。補足になるのですが、資料の問題ですが、現状でもあまり大きなスペースとはいえず、困っているのですが。資料館とか文書館を作るような構想だけでも作ってはいかがでしょうか。

私達が関係していた上福岡市では、基本的に収集していた資料を、空き教室に保管していました。担当職員が廃棄の際の確認をしていると思います。担当している職員が破棄する前に、捨てるか否かという作業をするシステムを作っていく必要があると思います。なんらかの場所も確保する必要があるのではないかと思います。もちろん職員もですが。

根岸委員長

今後の資料の保存、あるいは公文書をいかに保存していくかについては、他の自治体でも取り組んでいる大きな課題だと思います。

他にいかがでしょうか。

林委員

今述べられている内容に該当するかどうかわからないのですが、私は小金井市に住んで80数年になります。私が子どもの頃は、小金井のこの地から夜空を見上げると満天の星空が見えました。今ではそのようなことは全く考えられなくなっています。

昭和30年代に、私が市の行政担当の責任者をやっております頃に、小金井市の飽和人口を関係者に試算してもらったことがあります。その試算の結果、13万人が限度という数字がでました。現在は12万人ほどですから、あと1万人ほどで、飽和人口に達する。今後それ以上になっていくか、減少していくか分かりませんが、それ以上になった場合、市の生活環境、住環境等に重大な問題が生じてくると思われまます。

80年の間に市民の気風の変化を見ていますと、これは私の個人的な見解ですが、小金井市に定着して代々引き継がれて住んでいく、そういう世帯がなくなってきた。今、小金井市を終の棲家としてお住まいの方がどれだけいらっしゃるか。その方達が世代を超えて小金井市に子孫を残していくことができるかということ、どうもそういう環境にはない。そういう難しさを考えていきますと、市史を残すということにどういう意味があるかという考えに至るのですよね。

そういうふうの子孫が残っていかない、つまり一時的に小金井に住むだけでは郷土愛はなかなか育ちにくい。そういう人達にこうやって一生懸命市史の編さんをしながら、小金井市に郷土愛を持ってもらって、小金井市の歴史に興味を持ってもらおうと努力するのは、研究者のためにやっているわけではなくて、市民にそういうものを認識してもらいたくて、行政の経費を投入してやっているわけです。それがなかなかマッチすることが難しい。

私は議員時代から市史の編さんに関心をもっておりましたので、議員時代にも議会選出枠で市史編さん委員に実はなっておりました。

議員という行政機関を監視する立場の人間が附属機関の一員として行政の一員として共にすすめるのはどうかという議論があり、附属機関内で、議会選出という立場をなくした経過がございます。そういう状況を考えて非常に複雑な思いがございます。

今回、編集に関わっている方達及び最終的には委員長から、「市史の編さんについては委員会が責任をもつのですから、全部目を通してください」ということで、今回刊行予定の市史がゲラ刷りの段階で委員宛に送られてきました。このおかげで、開かれて、私は原稿に全部目を通しました。

近代、現代については、それなりに認識は持っております。今までが一番近い時代ですから。ところが、古代・中世になるとやはり距離があった。でも、全部に目を通してみると、小金井市に愛着がわいてくるのです。こういう経過があって先人の努力の積み重ねがあったのだと。

また、読んでみると、非常に面白い読み物だということを痛感したのです。終の棲家としようがしまいが、市民の皆様にも面白い読み物だと分かっていたきたい。

今までハードの面に関わってきましたが、これからはソフトの面に力を入れてやっていきたいなど。

大変申し訳ないのですが、実は事務局の方に任期がきたら退任させてもらいたいと申しおきました。あと数日で88歳となります。最近からだも思うように動かなくなってまいりましたので、役に立たなくなって、意思表示もできなくなってこの席に座るのは不本意です。そういう思いもありましたので、この問題について、今申し上げたような所感を持ちました。

今後まとめをやられるということですが、部署部署の判断で廃棄されてしまう公文書をよく見かけてきました。マイクロフィルム化等保存する予算措置を本委員会でもまとめて要請することも大切だと思います。中嶋委員もおっしゃっていた公文書館も必要だと本当はそうだと思います。このようなことに予算を割き、予算措置をしていくような行政になって欲しいと思っています。

また市民協力員の方々、私が市役所の職員だった当時、職場でご一緒した元職員の方もなかにはいらっしゃるのですが、一生懸命やってくさっています。そういう力を活かしていただくようお願いしたいと思

います。

これが最後の委員会と思ったものですから、お話しした次第です。長くなってしまいました。お許してください。

根岸委員長
井上委員

ありがとうございます。井上委員、いかがですか。

私が小金井市民としてスタートした時点での小金井市に対する認識は、林委員とは全く異なるものでした。私は幼い子どもを抱えて小金井市に転居してきました。前の世代から続いて小金井に住み続けている方がとても多い地域だと感じたのです。保育園や学童保育での保護者として知りあった方達の同級生が他の関係での知人だったり、しかも皆さん小金井市から出ていかない。我が家の息子も将来はまた小金井に住みたいと言っています。住む方に愛着をわかせる、いい場所だよねという感想を持っている人が多いと感じつつ、その後、現在まで過ごしてきました。

それともう一つ、今の人口構成を見ると、働き盛りの方や子どもの人口比率多いですね。棺桶型ではなくて。まだそういう段階なので、うまく循環している。別に高齢化自体が悪いとは思っていません。いい街で有り続けて欲しい。そのためにも市史がいい形で活用できるといいなと思っています。そのときに今の手厚くいる人達、そしてこれから小金井市に住み続けようという若い人達に対して、どういうところを情報提供していくと関心につながり、伝わっていくのか。

林委員がおっしゃっていた何が大事かについては、私も正解があるわけではなくて、この委員会でも考えていきたいと思えます。

市史をゲラ段階から読ませていただきましたが、本当に面白くて、例えば中世の地図が掲載されている場面を現在アラサーの息子に見せると、興味を持って見ておりました、そんなことから話題が膨らみました。

将軍の鷹狩りの場所、水車等々、初めて知ったことがたくさんありまして、とても面白く読みましたので、いろいろなアイデアが出ていますが、是非いい形で出来ていくといいなと思えます。

最後におっしゃっていた資料の収集についてですが、現在の仕事をまわしている行政マンから見て必要な資料と、歴史的に価値のある資料は当然異なります。歴史的に必要なか否かを点検する場所は絶対必要だと思いますので、そういうシステムをどう作っていったらよいか。また保存の場所もどうするかというお話でしたが、大至急やらないと一度捨てられてしまったらおしまいですので、なるほどと思いました。

根岸委員長

ありがとうございました。貴重な意見をいただいたと思います。今後の市史編さんに役立てていくヒントをいただいたと思います。他にいかがでしょうか。

牛米委員

よろしいでしょうか。

根岸委員長

はい。

牛米委員

今、資料保存についての話が出ていましたが、公文書館、なかなか今建物を建てるのは大変だと言われています。

各自自治体、知恵を絞っていろいろなことをやっていますから、そのよ

うなところを、たずねて行って、どのようなことをしているかを聞いてみる、こんなふうにしたら良いとか、後から行く方は得をしますから、教えてもらえる。そういうことを始めてもいいのではないかと思います。なかなかそうしないと、有ったらいいよね、で終わってしまいます。

こんな形だったらできるのではないかを具体的に検討する。そうすればいろいろな方が耳を傾けてくれるかもしれません。そんなことを感じました。

根岸委員長 ほかにいかがでしょうか。

今様々なご意見をいただきましたけれども、先ほどまとめたように、一つは資料の保存、公開、あるいは公文書館につながるような問題、特にこれから作られていく資料をどうやって保存し、どうやって次の市史につなげていくか。

もう一つは、何が刊行できるかという問題。1とも2とも絡むのですが、そうするとどうしても職員が必要になってくる。

今いただいた様々な問題を具体的に例えばこの10年間で何ができるかという計画をこの委員会で今年度たてながら検討していく、そうしないとこの委員会は空回りしてしまうのではないかと思います。

それからもう一つは、この市史の総括をどう行っていくのか。

具体的にどうするかということですね、今後話し合いながら、今年度中に、事務局の方で検討いただければと思います。

何年間にどんなことをやっていくのか、先ほどのビジュアルな簡易版、やさしい市史の話や年表の刊行。いつまでに何を刊行していくかという計画をたてていただく。例えばあと3年～4年でビジュアルな簡易版を作成し、その後の2年で年表を作成する等、毎年はできないにしろ、いつまでに何をを行うか、事務局の方で検討してたたき台を作ってください、そんな形で今回の総括を活かしていく。そのような方向で次回、10月21日の委員会で事務局に計画案を作ってくださいということでしょうか。そうしないと、せっかく委員会がありながら、私達委員が集まるだけでは何もならない気がしますので。

牛米委員 先日、各部会で、たたき台となる総括の文章を書かれましたよね。

その総括の報告書のイメージがまだ確定していない気がしますので、まず、そのイメージを確定していただいて、それを踏まえて今後の計画の検討へとになっていくのだと思います。

根岸委員長 日高委員、いかがでしょうか。

日高委員 皆さんがおっしゃったことでやっていければと思うのですが、やはり、何をしても予算立てが無いと難しいということがございますので、先ほど根岸委員長がおっしゃったように、市史編さん委員会を開くだけで終わってしまっただけでは意味が無いと思います。それでは、どういふことができるかという、例えば今回の市史編さんではできなかったことをやっていきたい、それを発表する場を作っていただきたいという話もございましたが、ではその時に具体的に資料調査をする時に経費はどうするのか。そういった話が出てきますので、これからどういう形

根岸委員長　　でやっていくことができるのかを是非考えていただきたいと思います。
 中嶋委員　　中嶋委員、いかがでしょうか。
 根岸委員長　　私も予算措置はもちろん大事だと思いますが、その前にイメージがわか
 中嶋委員　　かなければ予算もとれないので、まずその計画をたてていくことを今年
 度行うのだと思っておりました。
 根岸委員長　　林委員、これについては、いかがでしょうか。
 林委員　　先ほど委員長がおっしゃっていらした考え方で良いと思うのですが、
 実際に事務局に投げる訳ですよね。やはり予算の制約の中、事務局が大
 変になると思うのです。事務局とよく相談されておやりになっていただ
 きたいと思います。
 根岸委員長　　井上委員、いかがでしょうか。
 井上委員　　私は、前回に欠席いたしました後、通史編が自宅に届いて、市史編さん
 委員会もこれで終わりだと感慨深く思っておりましたら、まだ終わり
 ではないと、その後のこともしっかりやっていこうという姿勢には本当
 に感動いたしました。でも今おっしゃっていたとおりで、ただ開くだけ
 でなく、やるならば有意義な形でやれるように、是非何ができるかとか、
 もう一步先を見据えた検討をして、少しずつでも具体化していただける
 ようにお願いしたいと思います。
 根岸委員長　　ありがとうございました。
 　　　　　　　　それでは、事務局には無理をお願いすることになるかと思いますが、
 　　　　　　　　そのような形で、今回は、計画（案）をもとに考えていくという方向性
 　　　　　　　　が出たところで、とりあえず本日の会議は、ここまでにしてよろしいで
 　　　　　　　　しょうか。
 委員　　（承認）
 根岸委員長　　ありがとうございました。その他については、よろしいですか。
 関生涯学習課長　　事務局の方は特にございません。
 根岸委員長　　林委員はいかがですか。
 林委員　　今期で委員を終え、今後の出席はございませんので、次回から皆様に
 よろしくお願い申しあげたいと存じます。
 根岸委員長　　それでは、最後に事務局からお願いいたします。
 関生涯学習課長　　本日も慎重審議いただきまして、誠にありがとうございました。
 　　　　　　　　市史編さん事業につきましては、平成20年度の資料編の小金井桜編
 　　　　　　　　を皮切りに昨年度の通史編並びに考古・中世の資料編の刊行をもって
 　　　　　　　　一つの大きな区切りとなりました。通史編、考古・中世資料編の作成に
 　　　　　　　　つきましては、調査員の皆様をはじめ、様々な方のご協力をおもちまして
 　　　　　　　　、刊行のはこびとなりましたことを事務局としてもお礼申し上げたいと
 　　　　　　　　思います。
 　　　　　　　　昨年度小金井市制60周年記念事業との冠がついた事業として、大
 　　　　　　　　変注目の高いところでございました。先ほど各部会の方からのご意見、
 　　　　　　　　ご報告を様々ないただいた中で、事務局の体制というところで、厳しいご
 　　　　　　　　指摘もいただいたとっております。これについては、真摯に受けとめ
 　　　　　　　　、今後の市史編さん事業に活かしてまいりたいと思っております。

今後の新たな展開を構築していくためには、まず総括ということで、平成20年度から始まった10年間のあゆみをまとめることが必要かと考えてございます。この総括が今後の市史編さん事業を考える上で礎となるものと思いますので、そのことを踏まえて、今後の10年間、更に20年間という中長期的視点を持たなければならないと考えております。今後、市史編さん委員会の皆様のお考え、ご意見をお伺いしながら、事務局としての今後の事業展開をお示ししたいと考えております。

やはり何をやるにしても、財政的な予算の裏づけは必要だと今ご意見もいただきました。どの事業をやるにしても、予算の確固たる裏づけがないと事業は進まないと思ってございます。そのためには、確固たる方向性も示した中で、初めて予算というものが確保できるのではないかと事務局としては考えておるところでございます。今後も委員会を開催しながら、皆様のご意見をお伺いして、我々としての考えをお示しして、また皆様のご意見をいただきたいと思ってございます。今後ともよろしくお願ひしたいと存じます。以上でございます。

根岸委員長 ありがとうございました。それでは次回の日程についてお願いします

3 次回の会議日程

山崎文化財係長 次回は10月21日（月）午後2時から、こちらの会場となります。よろしくお願ひいたします。

根岸委員長 では、これで、第1回の委員会を終了いたします。どうもありがとうございました。